



教職員支援グループ（研究・研修）より

研修会を生かした指導を！

研究所としてこの3ヶ月、数々の研修を行ってきました。研修会場では、先生方の真剣な眼差し、積極的な意見交換などから、学ぼうとされる意欲が伝わってきました。その一部を紹介します。

〈小1担任研修会〉

今年度、初めて小学校1年生を担当する先生方が、「入学式の朝、教室に入ったら」という場面設定で演習を取り入れた講話や、「スタートカリキュラム」の活用の仕方の講話を通して、生活指導の具体的な方法について学びました。

～ 参加者の声 ～

- ・自分の身の回りの整理整頓や物の管理ができるように、図や写真で示すとよいことが分かった。
- ・一つ一つの動作をスモールステップで指示をすると効果的だと感じた。
- ・声のかけ方や、指示の出し方など知りたいことが具体的に分かった。

入学式前の、4月5日という大変忙しい時期でしたが、実際の入学式ですぐに生かすことのできる具体的な内容を学ぶことができたという声をいただきました。

〈小学校英語研修会〉

今年度、大垣市の小学校英語を初めて行う先生方が、中川小学校でのモジュール学習及び授業参観と学校指導専門員による講話を通して、「水都っ子わくわく英語プラン」に基づいた授業の進め方について学びました。

～ 参加者の声 ～

- ・モジュール学習で意味のある交流を行い、子どもの学習に対する意欲を喚起していきたい。
- ・子どもたちが興味をもつことができるような教師のフリートークを入れ込むようにしていく。
- ・評価の方法を学んだので、毎時間の評価を大切にしていきたい。
- ・単元の出口を子どもに意識させるような指導過程を実践していきたい。

3人の先生の役割を明確に！

HRT (Home-room Teacher)

授業をコーディネートします。

VE T (Volunteer English Teacher)

専門的な助言や評価をします。

ALT (Assistant Language Teacher)

本場の発音や表現、文化を広めます。

今後は特に上記のようにHRT、VE T、ALT、それぞれの役割を明確にし、新学習指導要領を見据えて、学びのある指導過程を工夫していきましょう。

〈人権・同和教育教員研修会〉

教職経験10年目程度の先生方が、南中学校での授業参観と校長先生による講話を通して、【認識力】【自己啓発力】【行動力】の3つの力を踏まえた授業の進め方を学びました。また、今日的課題である「LGBT」について、演習を交えた講話を通して、正しい知識をもって組織で対応することの大切さを学びました。

～ 参加者の声 ～

- ・「どこで」「どのような力を」「どのように」指導するのかを明らかにすることが「人権・同和教育の観点」を明確にすることであることが分かった。
- ・男女や利き手など、何気なく区別していることが身の回りにたくさんあることが分かった。
LGBTについては身近な問題であることを念頭において、生徒たちの言動を注意してみたい。

全教育活動を通して見守り、価値付ける！

人権・同和教育は、全教育活動を通して進めます。授業中、休み時間、給食の時間、掃除の時間・・・。

「人権教育の手引」を読み返してその具体的な手立てについて改めて確かめておきたいものです。



児童生徒支援グループより

不登校の「早期発見」「早期対応」

児童生徒が欠席をした場合、

- 欠席 1日目：電話連絡
- 連続欠席 2日目：家庭訪問
- 連続欠席 3日目：ケース会議（共通理解を図る）

このように各学校で対応していただいていることで、長期間の欠席に至らない児童生徒がいます。不登校を生み出さないためにも、「早期発見」「早期対応」についてきめ細く行うことが求められています。

「早期発見」については、学校生活の中で児童生徒の行動観察を、次のような視点をもとに行ってみることが考えられます。

- ① 表情が暗い、硬い
- ② 顔色が悪い、体調不良を訴える
- ③ 今までよく話したのに、話さなくなった
- ④ うそをつく、ごまかすようになった
- ⑤ 遅刻・早退・保健室利用が増えた
- ⑥ 休み時間や移動教室時に孤立している
- ⑦ 授業に集中せず、勝手に話したり、他事をしたり…
- ⑧ いつも一緒にいた仲間と離れ、別の仲間集団を形成

この視点を、学校生活のこんな場面で活用してはいかげでしょうか。

- ・登校時、教室入室時 → ①②③
朝の活動等に参加したか
- ・朝の会時 → ①②⑤
出席確認、健康観察、落ち着きがあるか
- ・移動教室時 → ⑥⑧
一人で過ごしていないか
- ・授業中 → ①③⑤⑦
グループ活動等、仲間と相談できているか
- ・休み時間の教室内や廊下での行動 → ③④⑥⑧
一人で過ごしていないか
一人でいる状態なら先生から話しかける
- ・給食の配膳から後片付け → ①②③⑥
仲間と話しながら食べているか
- ・中休み・昼休み → ①③④⑥⑧
活動に参加しているか、仲間と遊んでいるか
一緒に過ごす仲間はいるか
- ・縦割り班での活動、掃除 → ①④⑦
他学年の児童とも仲よく活動できているか
掃除をすることに集中しているか

・部活動 → ①③④⑧

参加しているか、先輩後輩の関係

・下校時 → ①⑥

怒っている・泣いているなど

一人で帰ろうとしていないか

このように「早期発見」のためには、様々な角度から児童生徒の様子をつかむことが大切です。またこれらは不登校に限らず、いじめの予兆や行動が見られた場合の迅速な対応のためにも必要となる情報です。

また、欠席した場合の「早期対応」としては、次の点を参考に保護者の方に伺ってみる方法があります。

1日目 ・家庭での様子、過ごし方
電話 ・体調について、病院へ行ったか
・気にしていることはあるか（宿題や友人関係等）
・翌日の予定を伝える
安心して登校できる働きかけ

2日目 ・家庭での様子、過ごし方
訪問 ・体調について、病院へ行ったか
・保護者から見る最近の家庭での変化（昼夜逆転等、生活習慣の変化等）
・翌日の予定や学校の様子を伝える
安心して登校できる働きかけ

3日目 ・欠席理由に応じて、ケース会議を開き、必要な支援を検討し、保護者に連絡

病気が原因であっても、3日間の欠席は児童生徒を不安にさせます。学習面、友人関係など安心できる内容を伝えていくことが大切です。

3日連続欠席がありましたら、「早期対応」のひとつの手段として研究所にもご連絡ください。ご要望に応じてケース会議等にも参加し、一緒に対策を考えます。

4月に紹介しました各種の相談もぜひご活用ください。



★7月2日(月)13:30～15:00

ほほえみ保護者を開催します。

講師は、過去に不登校となったお子さんをもたれる保護者の方です。当時の様子や思いを聴くことで、対応のヒントになればと思います。

《教育総合研究所にかかわる、7・8月の行事》

- 7月23日(月) Q-U調査結果活用講座①(K-13法)
- 26日(木) 「ふるさと大垣科」ふるさと講座
- 27日(金) Q-U調査結果活用講座②(SST)
- 31日(火) 教職員研修会
- ※これから研修各校で実施(7月)

- 8月2日(木) これから講座①「論文の書き方」
- 3日(金) 「ふるさと大垣科」俳句・文学講座
- 8月20日(月) 第2回小中教科別研究会
- 22日(水) 特別支援教育講座
- ※だれもが研修(1)(2)各校で実施(7月～8月)
- ※現職教育情報教育サポート各校で実施(7月～8月)